

特集 2

NEXCO東日本グループ カーボンニュートラル推進戦略

NEXCO東日本グループではサステナビリティ経営を推進し、高速道路を通じて社会を支える使命を持続的に果たすため、サプライチェーンを対象に温室効果ガスの実質排出量の削減を推進する「NEXCO東日本グループ カーボンニュートラル推進戦略」(以下、「本戦略」)を策定しました。

NEXCO東日本グループは一丸となって、高速道路事業を通じた道路交通の円滑化などによる温室効果ガス排出量の削減に取り組むとともに、エネルギー消費の最小化や再生可能エネルギーの創造・活用を推進し、さらには産業界等とも連携した新たな技術の開発にも挑戦して2050年カーボンニュートラルの実現に貢献してまいります。

■ 本戦略の考え方

本戦略では、NEXCO東日本グループ(自社)の事業活動による排出(Scope 1・2)に加え、自社の事業活動に伴う間接的な排出(Scope 3)を含む「サプライチェーン排出量^{*1}」を対象とします。

^{*1} サプライチェーン排出量は、「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン」(環境省)に基づき算定

NEXCO東日本グループのサプライチェーン排出量の範囲

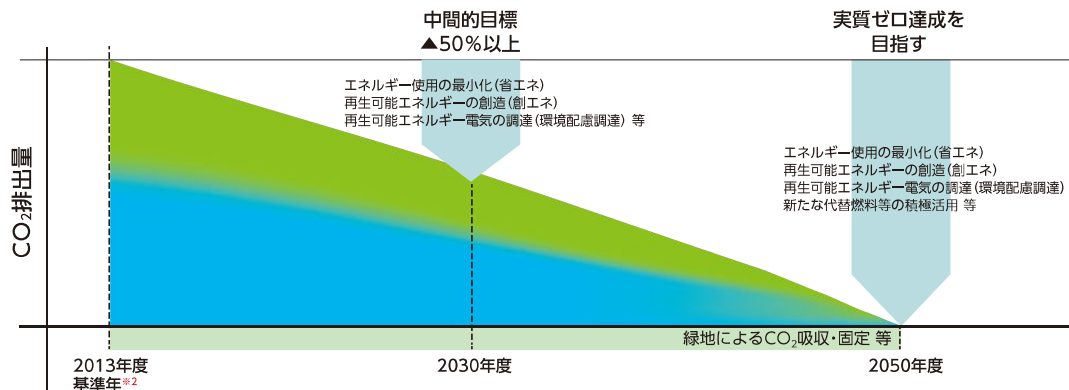
自社の事業活動に関連する他者の排出	自社の事業活動による排出	自社の事業活動に関連する他者の排出
Scope 3【上流】	Scope 1 Scope 2	Scope 3【下流】
高速道路の建設・管理のために 調達する工事等 ＜間接排出＞	燃料の使用 電気の使用 ＜直接排出＞ ＜間接排出＞ (当社・グループ会社) (当社・グループ会社)	高速道路を走行する 自動車からの排出等 ＜間接排出＞

■ 本戦略の目標

サプライチェーン排出量の削減策を計画し、2050年カーボンニュートラルの実現を目指すため、次の目標を定めます。

Scope 1 / Scope 2

自社の活動によるCO₂排出量について、削減策を計画・推進し、2050年度のCO₂実質排出量ゼロの達成を目指します。また、中間的目標として2030年度においてCO₂排出量を2013年度比50%以上の削減を目指します。



Scope 3

政府が掲げる2050年カーボンニュートラルの実現と2030年度における目標^{*3}の達成を目指し、高速道路を走行する自動車や高速道路の建設・管理のために調達する工事等によるCO₂排出量削減に寄与する施策を推進します。

^{*2} 本戦略では地球温暖化対策計画(令和3年10月22日閣議決定)に準拠して、2013年度の排出量を基準に削減率をモニタリングしていきます。

^{*3} 地球温暖化対策計画における温室効果ガス排出量・吸収量の目標。2030年度の目標・目安として2013年度比▲46% (さらに、50%の高みに向け、挑戦を続けていく。)とされ、区分ごとの目標・目安として、産業部門で▲38%、業務その他部門で▲51%、運輸部門で▲35%などが示されています。

■ 目標を達成するため推進する取組み

緩和策 2050カーボンニュートラルの実現を目指す取組み

下記取組みによりCO₂排出量の削減に取り組めます。

①エネルギー使用量の最小化 (Scope 1/Scope 2)

道路やSA・PA等の照明のLED化や車の電動車化 (HV等) などにより、エネルギー使用量を最小化します。

②高速道路の空間を活用した
再生可能エネルギーの創造 (Scope 2)

太陽光発電設備等の導入により再生可能エネルギーを創造し、NEXCO東日本グループの事業活動で使用するエネルギーとして活用します。

③再生可能エネルギーの活用 (Scope 1/Scope 2)

太陽光・風力・水力発電や今後の技術革新により見込まれる水素・バイオ燃料などの再生可能エネルギーを活用します。

④緑地の適切な維持管理を行い、CO₂吸収・固定による
地球温暖化の緩和 (Scope 1/Scope 2)

高速道路の盛土のり面等に植樹された樹木等緑地を適正に維持管理することで、緑地によるCO₂吸収/固定効果を持続することにより、CO₂削減に貢献します。

⑤高速道路ネットワーク整備等の事業活動を通じた
交通の円滑化 (Scope 3)

高速道路ネットワーク、4車線化やスマートICの整備による交通の円滑化、および付加車線等の整備による渋滞発生の緩和により、高速道路を走行する自動車からのCO₂排出量の削減に取り組めます。

⑥カーボンニュートラルに寄与する
新技術・新工法の開発や活用の推進 (Scope 3)

高速道路の新設、改修・修繕等工事の調達において、新たな仕様の検討や技術基準への反映等のほか、カーボンニュートラルの実現に向けた企業の技術開発と連携し、工事等現場におけるCO₂排出量削減対策の普及・促進などに取り組めます。

⑦廃棄物・建設副産物の3R (Reduce, Reuse, Recycle) と
グリーン調達の推進 (Scope 3)

工事やSA・PA等から発生する廃棄物・建築副産物の3Rを推進するとともに、事業活動で使用する物品・資材等のグリーン調達に取り組めます。

① トンネル照明のLED化

高圧ナトリウムランプ LED照明

④ 盛土のり面への植栽

造成直後(1980年頃) 31年後(2011年)

⑤ 高速道路を走行することによるCO₂排出削減効果の想定

走行状況	CO ₂ 排出量 (万t-CO ₂ /年)	削減率
一般道路走行 (想定)	748	100%
高速道路走行	610	▲138※4 (▲18%)

※4 左側の排出係数から求められる走行台キロ当たりのCO₂排出量 (一般道路平均走行速度31.6km/h、高速道路平均走行速度78.3km/h)に、2022年度の高速道路台キロを乗じて算出しています。

⑤ 高速道路ネットワーク整備による一般道路の交通円滑化

整備前 整備後

抜け道利用 幹線道路 生活道路 転換 幹線道路 生活道路 高速道路

適応策 気候変動が避けられない状況に対応するための取組み

①強靱で信頼性の高い高速道路の構築 【ハード対策】

近年、地球温暖化の影響によると思われる異常気象が頻発しています。異常気象時でも、安全・安心に高速道路が利用できるよう、新たな基準等による強靱で信頼性の高い高速道路の構築に努めます。

②災害の発生に備えた技術基準や情報システムの検討【ソフト対策】

最新の気象データや技術的知見等に基づく技術基準・指標の活用や、情報化技術を活用したシステムの導入検討に取り組めます。

③災害への対応力の強化【ソフト対策】

自然災害は、いつ・どこで発生するかわかりません。このため、国・自治体や自衛隊等と連携し、災害発生時を想定した訓練等による対応力を強化し、円滑な道路交通の確保に取り組めます。